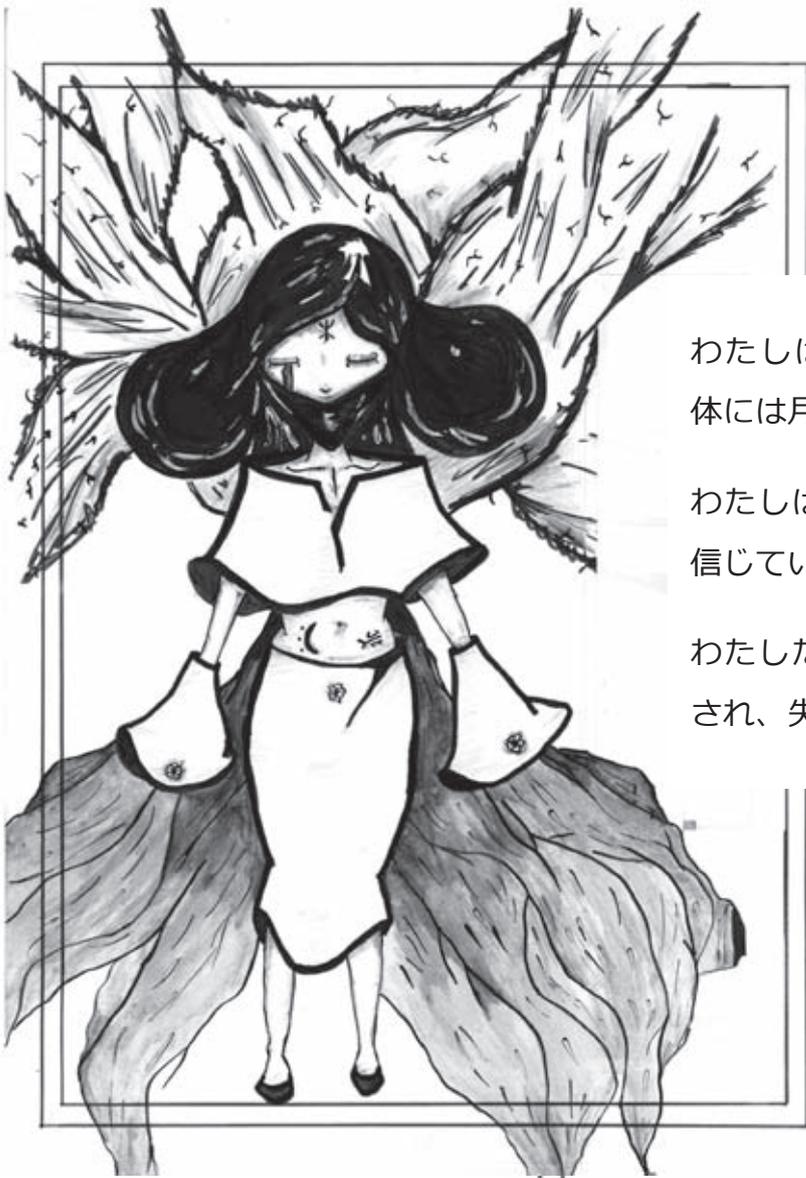


カラズン

サミラ・シェバ
SAMIRA CHEBBAH

翻訳 菊岡伸一

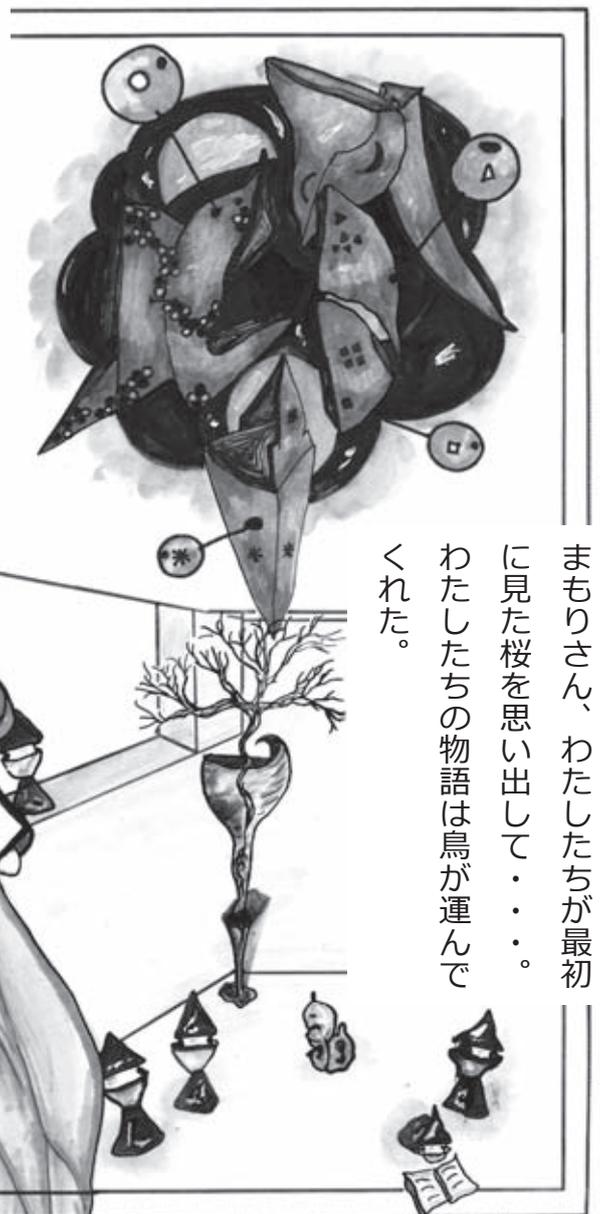
2016.03.21
Sami



わたしはアマズイーの娘。額にはそのシンボル、
体には月と木が刻まれている。

わたしは、あなたに命を授ける。心からあなたを
信じているから……。

わたしたちは未来をだきしめたい。過去から解放
され、失わされてきたものと結びつくために。



まもりさん、わたしたちが最初
に見た桜を思い出して……。
わたしたちの物語は鳥が運んで
くれた。

ジャナ。わたしたちの住む星、争いのない世界。
まだこの地球上には存在してないけど、いつかこ
こに五つの大陸の長が集まって、非暴力の誓いを
たて、ひとつになる約束をする。
でも、今は戦争の喧騒が続き、ずっと血が流され
ている。

まもりさん、
 あなたは、自然があなたの魂だ
 と言った。それを聞いたときに
 は、意味がよくわからなかった。
 でも、今はあなたが言ったこと
 がわかる。
 ちよっと遅くなって締まったけ
 れど。



新しい植物で
 しょう？

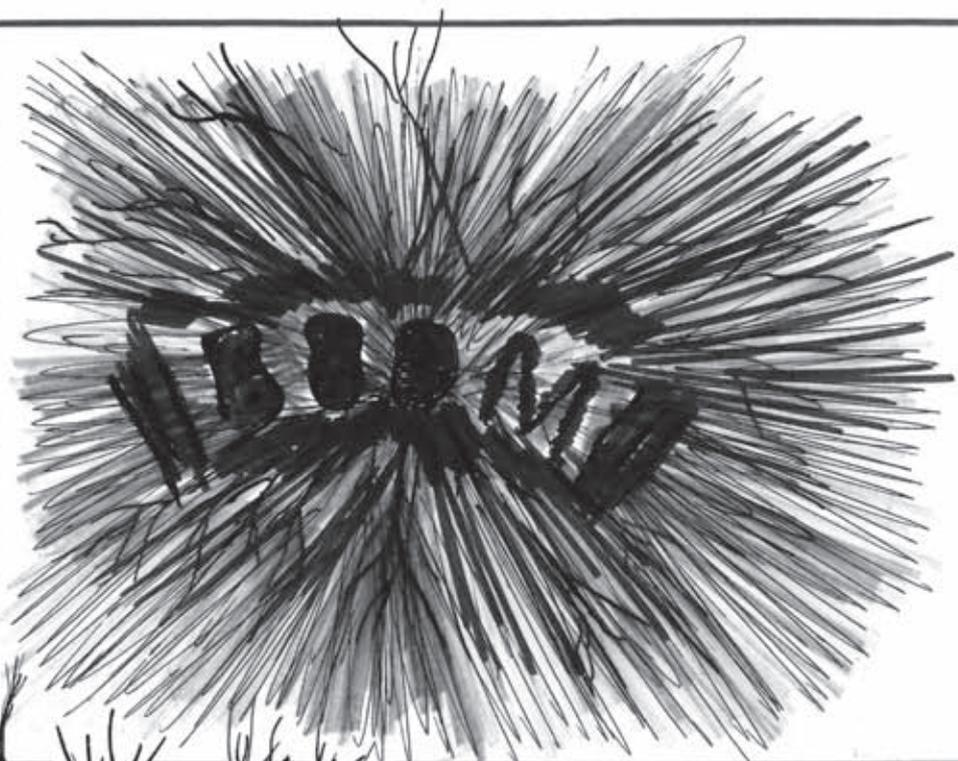
あなたは
 なぜ咲きだしたいと
 思わないの？



おまえは
 カラズンだよ



おもしろい！



まもりさん、
すべてが完璧だった。
爆発する前は。

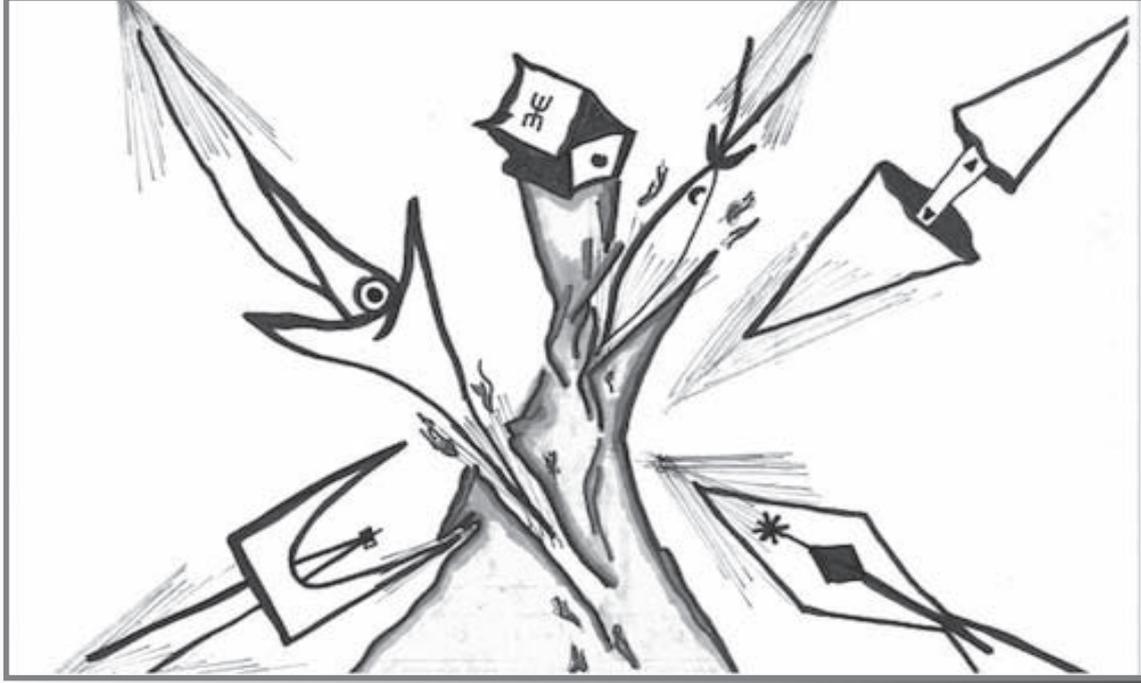
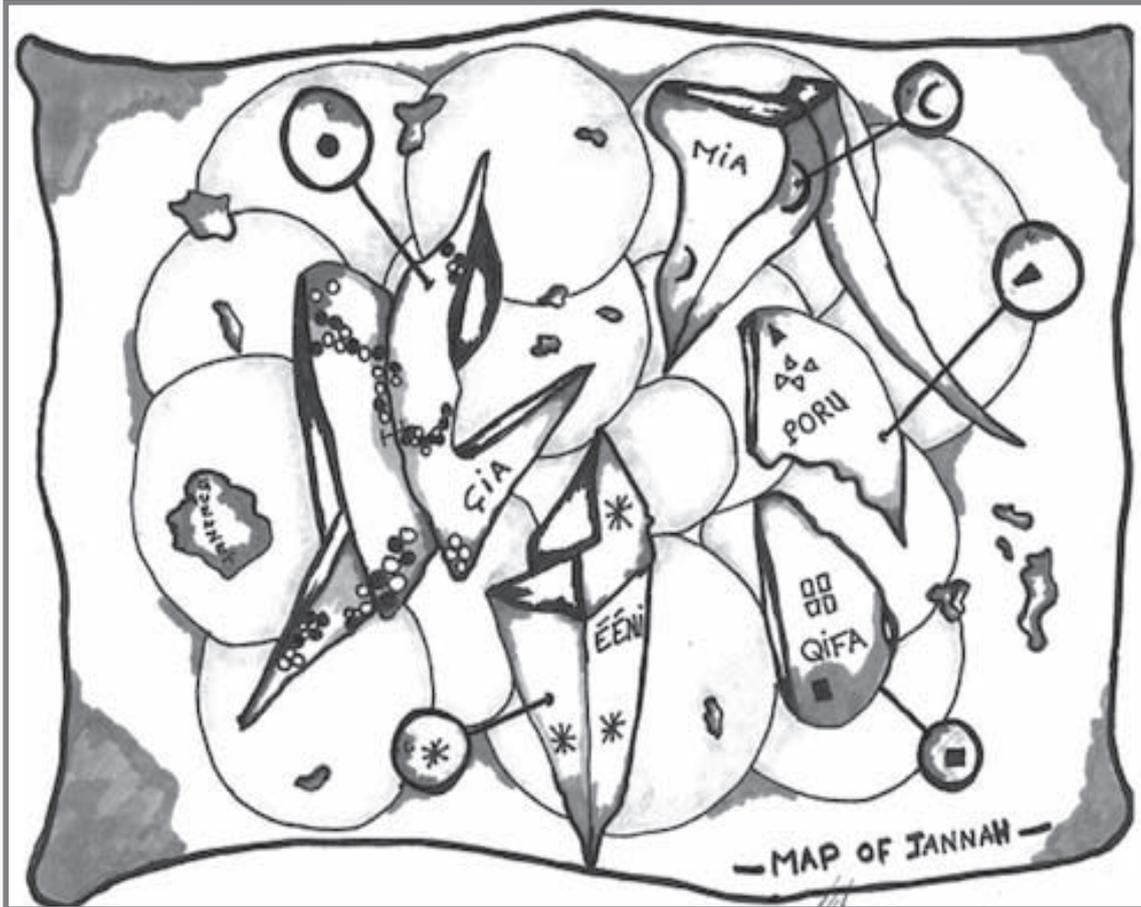


その日、おまえは眠っ
ていて、けして起きな
かった。



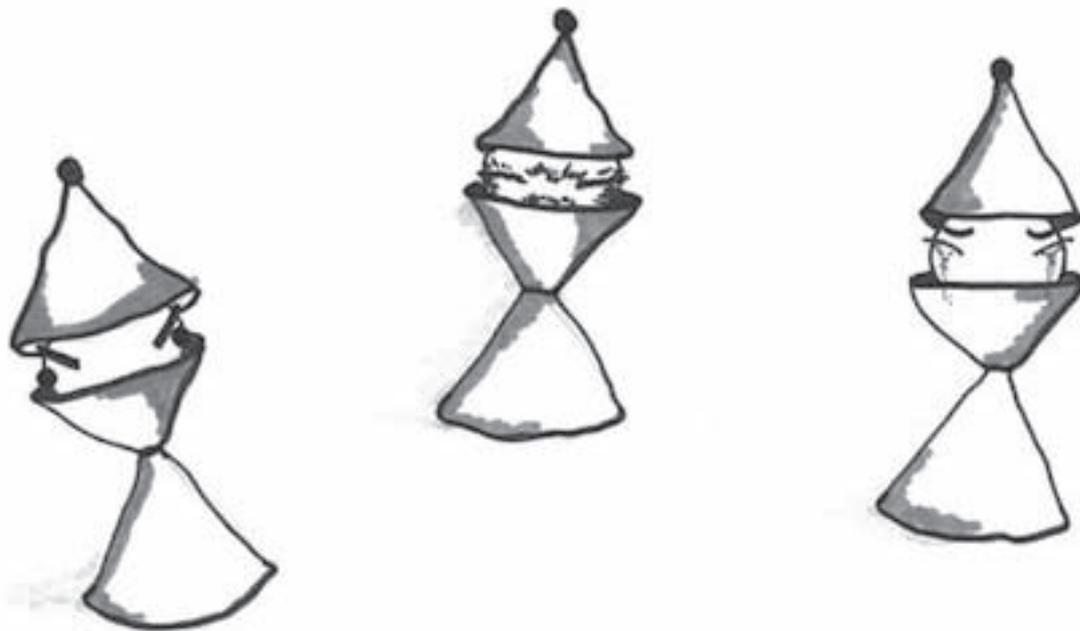
まもりさん、
わたしは敵のキャンプに出かけていく。
わたしは何をすればいいの。

惑星ジャナは、シア、イエリ、キファ、ミア、ポルの五つのメガロポール（巨大都市）、
周辺の独立地域からなる。私は、独立地域のひとつ、ゴゼットに住んでいる。



五つのメガロ
ポールの間に、
紛争が起こり、
まわりの独立
地域にも及ん
でいた。

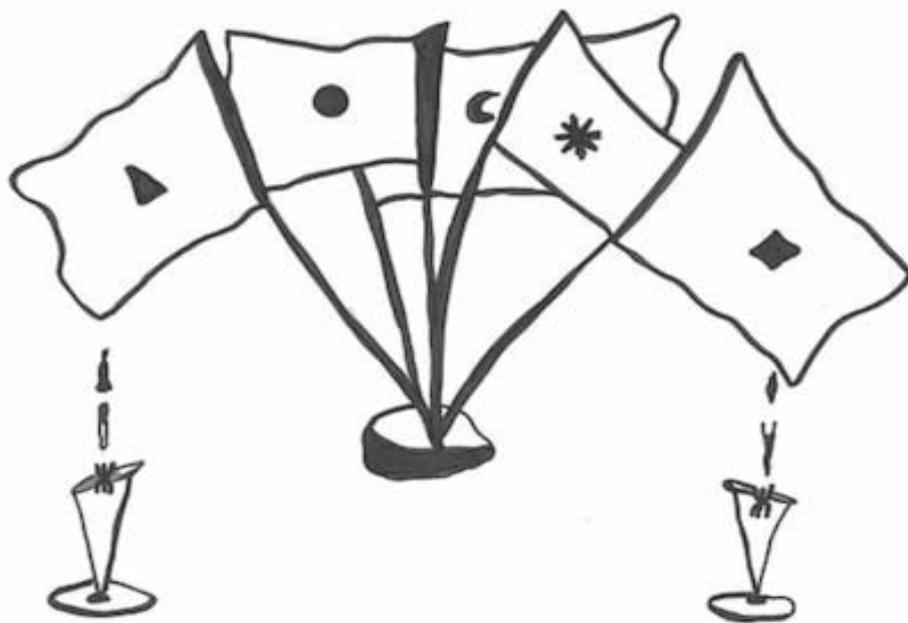
領土と富を求める支配欲のせいで、独立地域が戦場になり、犠牲者があとを絶たなかった。私も、友達も、ものごころがつく頃から戦わねばならなかった。私たちは敵を退却させることができたが、多くのものを失った。



悲しみ、苦しみ、怒り、絶望・・・自分となんの関わりもない戦争に巻き込まれ、あらゆる感情が錯綜した。

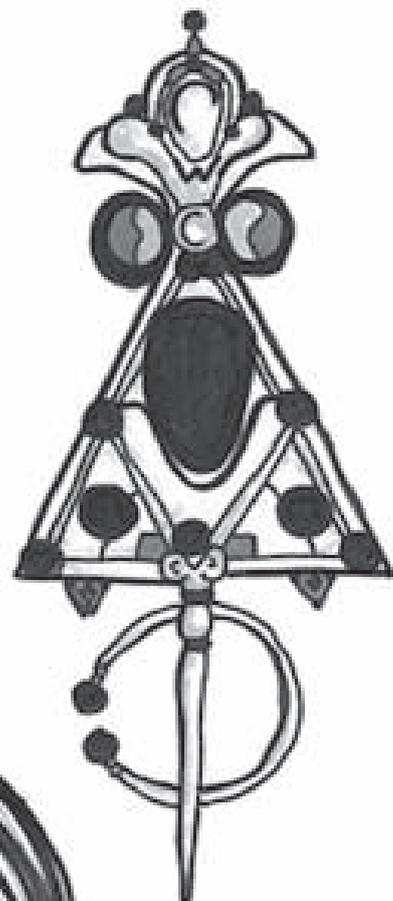
いつまでもここを戦場にしておくわけにいかないし、重荷と憎しみの未来を引き継ぐことはできない。

私たちは本当の平和にむけて出発できるよ
うに、古くからの敵とも会うことにした。



私は独立地域に住む部族の代表に選ばれた。

メガロポールと独立地域の間には穏やかな静寂を実現できるまで、非暴力
条約が結ばれるように徹底的に議論する。

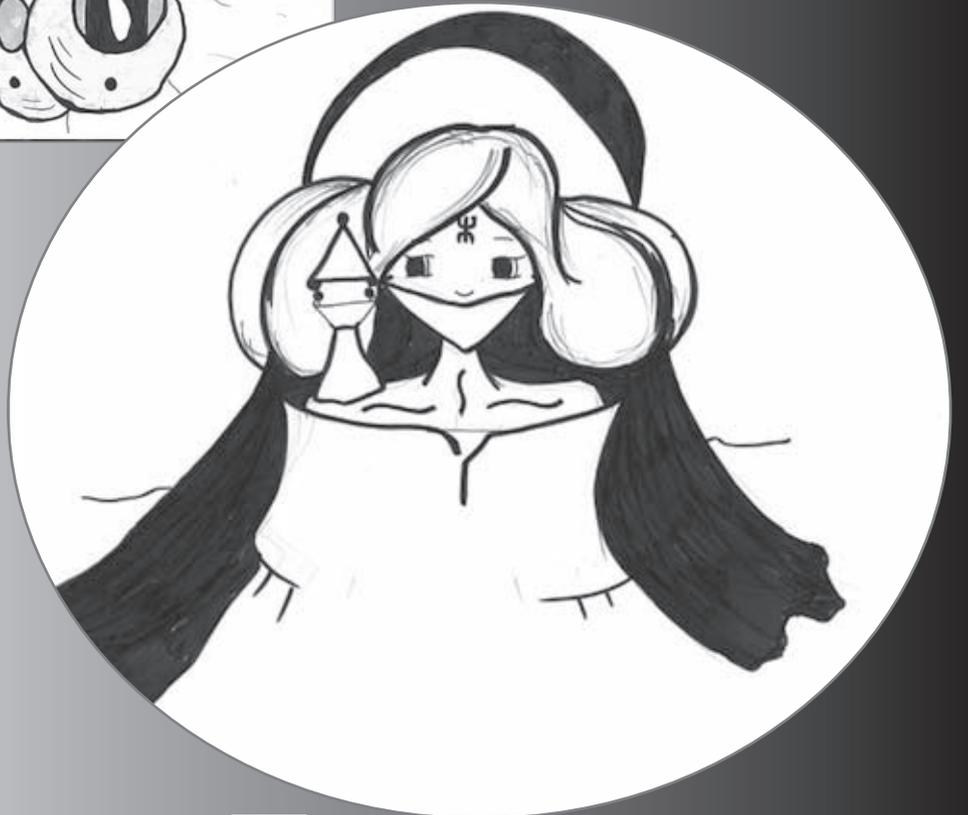
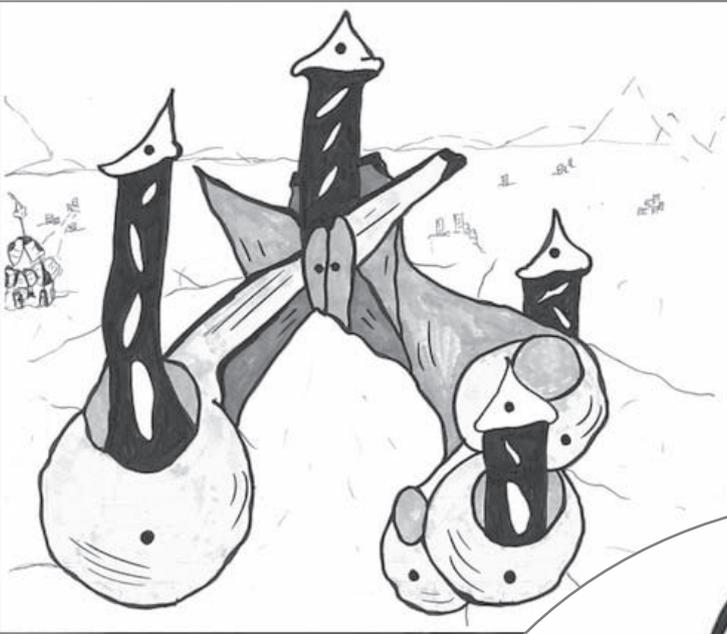


まもりさんを失って、私は涙に沈んだ。しかし、そのときから私は見守られている。涙より楽しい時を思い出すことの方が大切だ。



今、私は代表として停戦に調印するためにシアにいる。

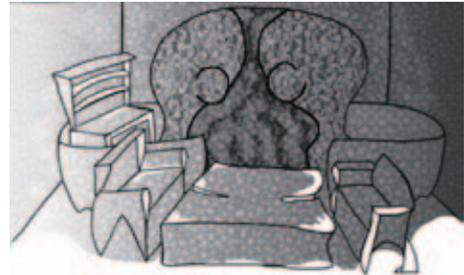
それは過去を微笑ませ、平和への思いを助けるだろう。



「さあ、行こう。時間だ」



カラズンは、弟たちとともにスィアの城に滞在している。そこで非暴力条約を締結する。それぞれの国の参加者代表と、用意された広い部屋にいる。



お邪魔致します。私がこの館の執事です。

貴方様に会議が始まる時間をお知らせに参りました。私が明日九時半にご案内いたします。



分かりました。その時刻に待っていきましょう。

私が貴方様の担当になっております。

何かございましたら、どうぞお申し付けください。

ありがとう。

この城の庭園を散歩したいのですが、よろしいかしら？

もちろんです。私がお供しましょう。

ご心配なく。

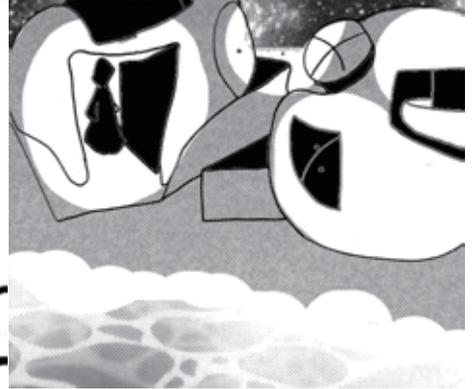
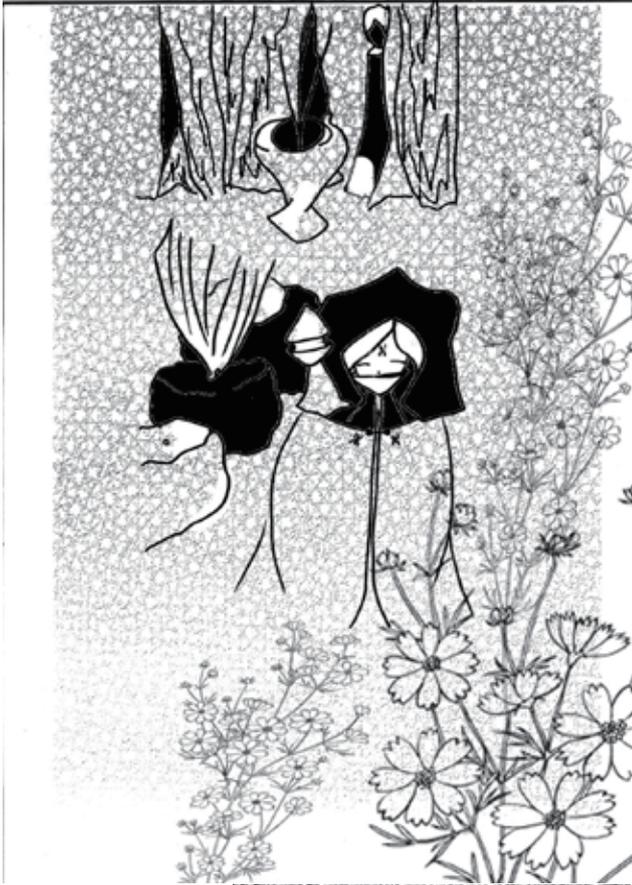
もう充分お世話になっていますもの。

では、私は失礼いたします。



ここの庭園は本当に素晴らしいわ。

なんてきれいな花なの…





こんばんは、サイ。

まあ、驚いた！ サイ・ダイフィリア。
フェロシア・ダイフィリアの嫡男、スィア秘密軍の
隊長がお出でとは……。

まだ戦いをお望みですか？



私が2対0のスコアで勝っているはずですけど。

なんだと？

あ、そのことは貴方には内緒だったわ。

なぜ私を殺そうとするの？ 貴方は平和を望まないの？

貴様の弁舌は、他の者には通用しても、私は決して信じないぞ。
私からすれば、貴様は我々の敵なのだ。急に友好を申し入れてきても、
信じられるものか。



わかりましたわ。貴方は、私を敵とみなすように上司に話した。
そうでしょ、サイ・ダイフィリア？

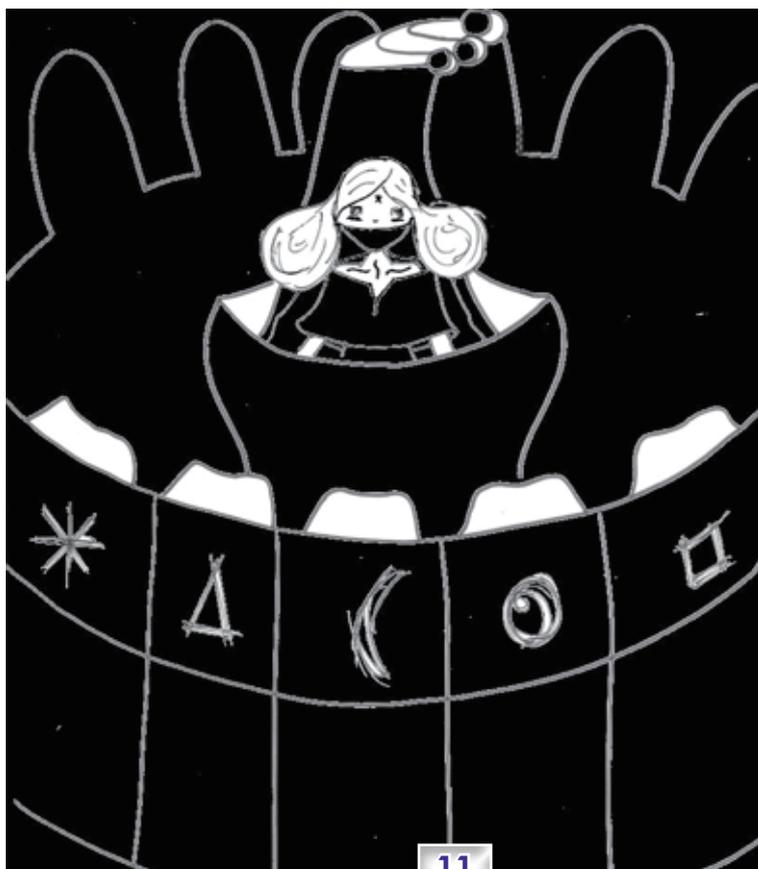
貴方は私のいう事を信じないの、それとも信じたくないの？

どちらでも同じことだ。貴様の言う平和はまやかしだ。

自分が主役を演じる茶番劇だ。色々言うが実際は、スィアと市民にとって危険な存在だ。
昔からいつだって貴様は我々の敵だった。今になって盟友だと思えるか。

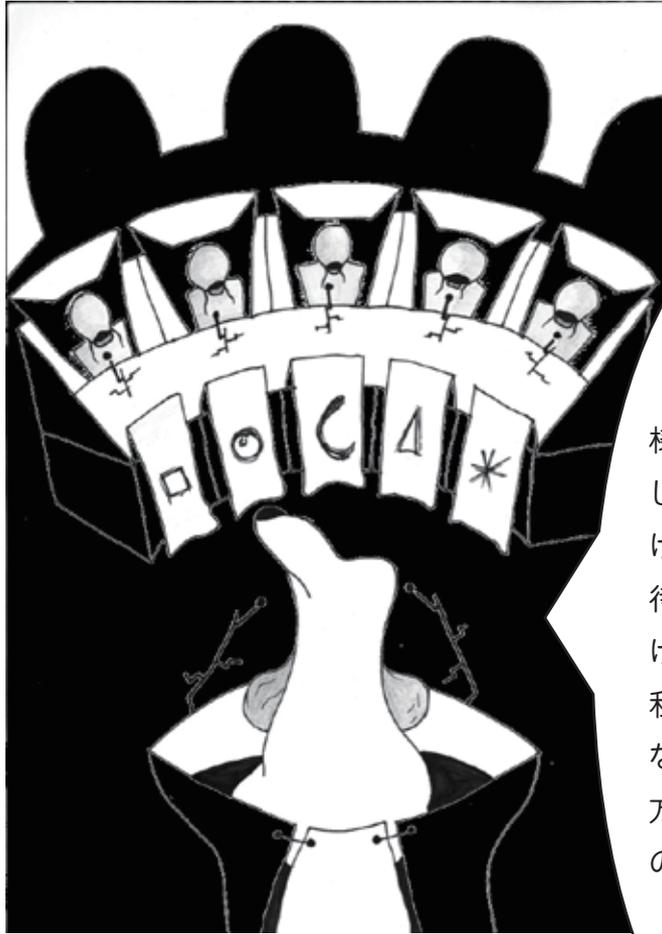
サインだけでは十分ではないということね。率直なお話をありがとう。
申し訳ないけど、私は行かなくちゃならない。貴方もご存じなように、
明日はとても大事なことが待っているのよ。

私は、貴方に自分を少ししか見せてこなかった。では、よい夜を。



執事 アズムール族の偉大な祭司、カラズン様。

アズムールのカラズン祭司、参集したすべての者の名において、貴方のお越しに感謝申し上げます。我々の見通しでは、非暴力条約成立を可能にするでしょう。明るい知らせから未来がつくられ、我々の力強い同盟は互いを友好的に結び合わせ、豊かにするでしょう。さあ、貴方のスピーチです。



私も高貴な皆様と同席の栄誉を得ましたことを感謝申し上げます。皆様方のご招待に返礼として申し上げます。……皆様は私どもの敵です！唐突な友好の申し出も、貴方がたに対する私どもの不信感を和らげはしません。

なんと、カラズン祭司！
何を言い出すんだ。



十分考慮したうえで、
私はこの調印は取り
やめるべきだと思っ
たのです。



説明してください。

アズムールを護るため祭司となったときから、私は自分たちの幸福のために力を尽くしてきました。これまで私の判断が争いを引き起こしたことはないと思っています。しかし、私は、貴方がたが私と同じ感情、価値観、誇りを持った人間だとは思えないのです。・・・今でもよくないことを考えてしまいます。私たちが受けてきた被害を思うと、心底から怒りが沸いてくるのです。

私はただサインするためここに来たのではありません。今は、何か目的さえあると思えないのです。



結構な弁舌でしたが、私はこの調印がたいへん重要だと考え、ここに出向いたことはご承知でしょう？調印では、私たちの過去の清算も保証している。それも高貴な祭司様はご存知でしょう？ことばは消えてしまうがサインはそうではない。



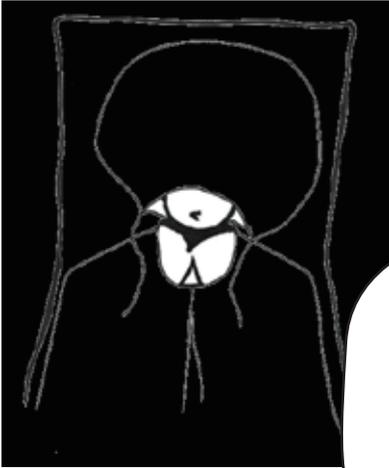
この条約も過去と同じように破棄されるでしょう。サインは何も変えませんが、ことばは私たちが実行しなければ消え去ってしまうのです。



何を提案するつもりなんですか？

貴方はこの会議を侮辱している。

再び戦いを始めます

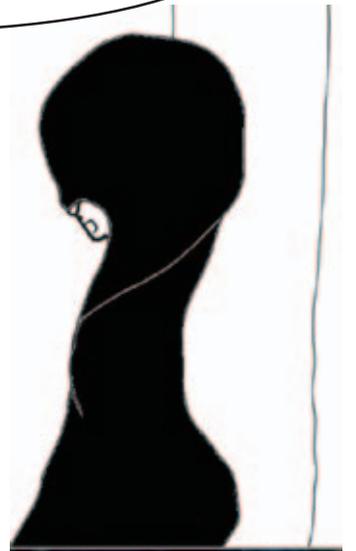


私は貴方がたの思惑など顧みません。戦いを始めれば、貴方がたは他人でしょう。対立は、私たちを再び恐怖の時代に逆戻りさせるでしょう。

ですから、私は時間を求めます。貴方がたを許すことを納得させる時間を。恨みはすぐに消すことができません。許すには時間がかかるし、私がそこに達するためには、多くの知恵が要るのです、貴方がたの庭を景色を眺めながら、私は憎悪と賛美を。



貴方は再び戦いを起こす意味がわかっているのですか？



私がここにいる怒りをあおっている。それは、この条約が現実を受け入れられないことを証明しています。招かれざる客で申し訳ありません。誰が怒りが静まる時、怒りが消えるひとを知っているのでしょうか。

貴方はもう老年のようだ、まだお若いのに。

戦争が早く年をとらせたんです。
あまりにも早く・・・。

よろしい。このような次第になった。

私は貴方が我々の元にもっと長くいらしても何も不都合はありません。貴方が考えたいならつきあいましょう。感情は変わることもあるでしょう。よろしければ、必要なだけここに止まることができます。条約のための晩餐会が用意されています。もっと知り合うために宴を始めましょう。



祭司はみんなの歡
心をひいたようだ。
消すのは難しく
なったな



難しいが不可
能ではない。私
たちと一緒に
過ごす前に、彼
女には消えて
もらうさ。

カラズンはスィアの城に戻った。そこで兄弟たちと再会する。

ただいま。
…すべてが元に戻った。
私たちは次のき
っかけを待つし
かない。
予定していた第二段
階に入る。
考えていた？



いや、まだ。僕たちは
サイ・ダイリフィアを
監視しているけど、と
きどき近付くのも難し
いんだ。

クゥと僕はスィアの東に
行ってきたけど、何も見
つからなかった。

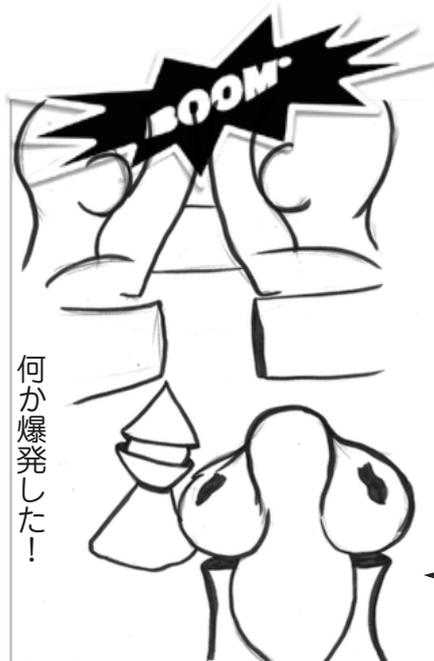
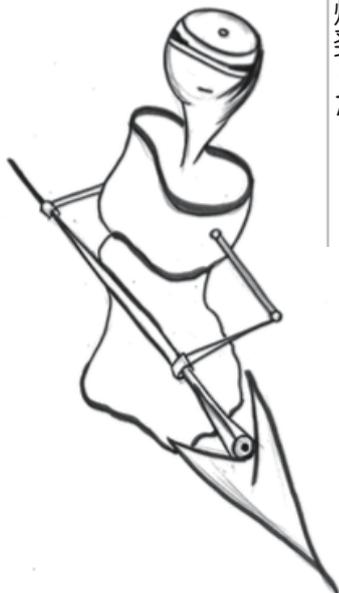
今のところは
ね。拒絶するしか
ない。条約取り消しを
話すのはまだ早い。
それぞれ思惑がある
し、説明すると混乱
してしまう。私たち
はまず自分の軍とい
ないと。

わかった。別に驚かないわ。
難しいけれど、選択の余地
はない。それがないと争い
は決しておさまらない。



条約をご破算に
できないの？

カラズン祭司、あなたを逮捕します。お仲間も同じです。



何か爆発した！

準備して。

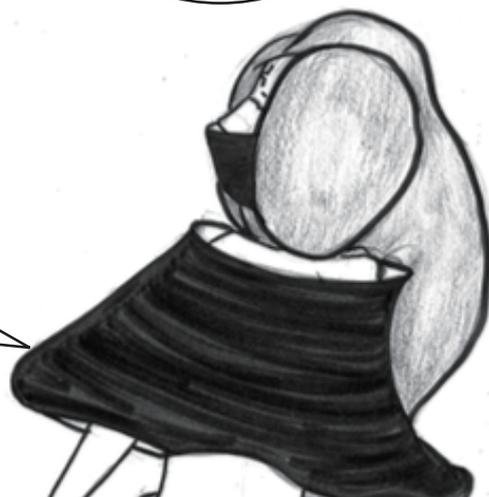
高貴な祭司様。もう待つことも、活動することもできませんな。

ついてくるんだ。貴様のような人間にふさわしい部屋に連れて行ってやる。

こいつを新しい部屋に連れて行け！

私のような人間？。

サイ、また貴方にお会いできて嬉しいわ。



わかりました、
結構ですわ。



私どもはこれで失礼
いたします。

待て！

高貴なカラズン
祭司様、私ども
ご無礼をお許し
ください。ちょっ
とした事件が起
きたようですが、
ご安心を。先ほ
どの爆発事件も
すぐに対処しま
すから



黙れ！ 彼女こそ
我々の真の敵だ
ということがわ
からんのか。お
前を呼んだのは、
他の都の皇帝た
ちを客として迎
えるためだ。早
急な行動は墓穴
を掘ることにな
る。お前たちは
いつも通り見張
りを続けるんだ。

しかし、
父上。

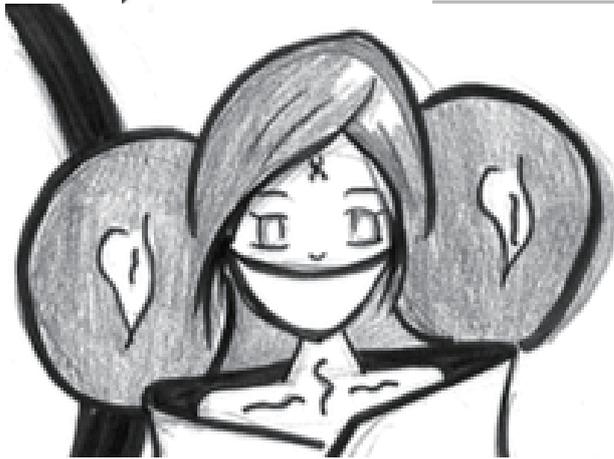
はい、
父上。



はい、わかりました。



キザ、いつまでも
じっとしてられ
ない、心配だわ。
力、行きなさい！



敵はたくさんいる。で
も、この争いはおさま
る。誓ってもいい。

スィアのある
ところで、キ
ザと兵士の
乱闘があっ
た。兵士はエ
エニ市のエン
ブレムを運ん
でいた。



おお。貴様と会うのは久しぶりだな。

俺も寂しかったぜ

最近トカシとするおもちゃをいじらなかつたか？



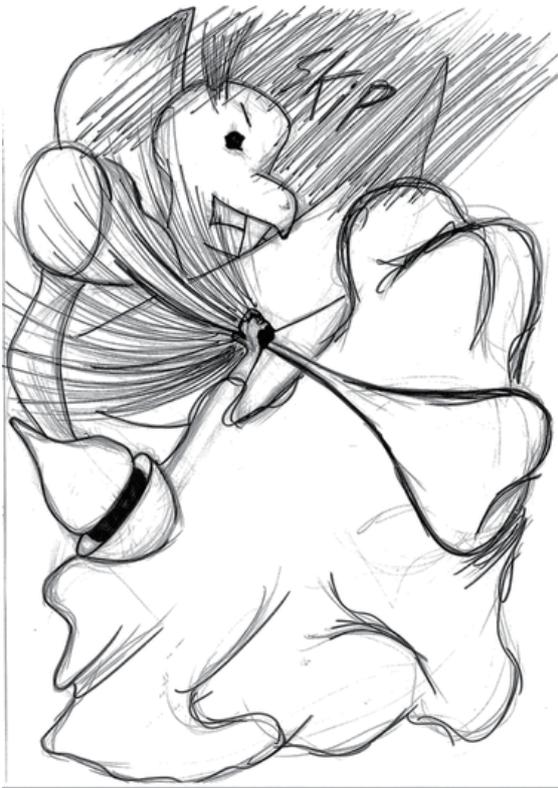
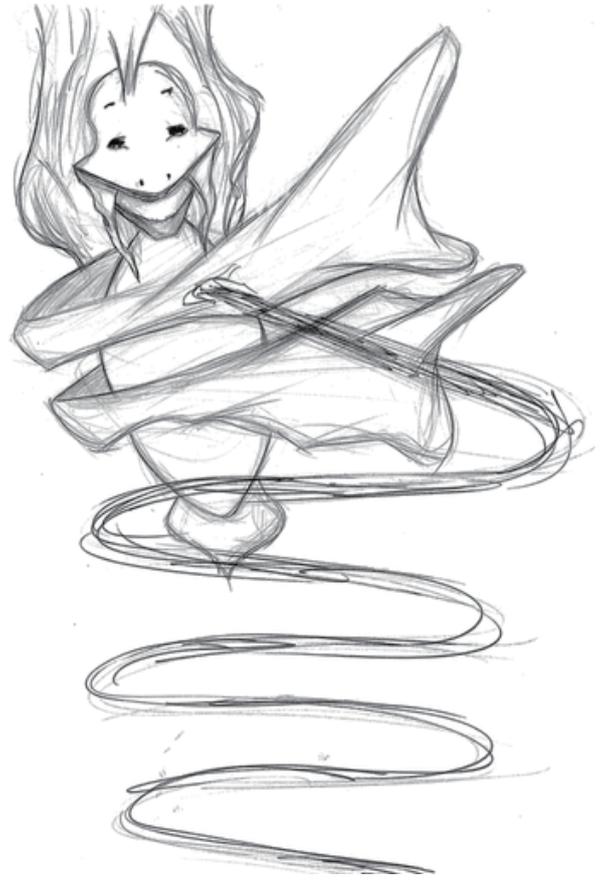
全然！



俺も同じことをおまえに聞こうとしてたところだ。貴様とはまだ決着がついていなかったな。

確かに、決着はまだだ。

俺も変だと思っていた。



キザ!



ああ、カ。
おまえか……。
ちえっ、逃げちまった。



大丈夫か？
……誰だ、
あいつは？

イエリの兵隊だ。

戻ろう、カラズンが心配し
ている。

わかった。





ここが君が決めたところだけど、
悪くない。



晩餐会には君がついて
きてくれるだろうか？



本当にその
にけるの？